

# 地教連ニュース

2002-11-13

事務局 エルムアカデミー 〒142-0053 品川区中延 5-6-14-2f  
03-3784-5676 Fax03-3784-5609 elm@kiwi.ne.jp  
Yzwhiro@m78.com (矢沢：地教連事務局担当)  
地教連ホームページ hppt://www.tamagaku.com/chikyoren

## 第18回 子育て文化協同交流研究集会・大阪大会開催のご案内

地教連としても位置づけて取り組む集会です。なお、大阪開催ということもありますので、地教連東西交流会も合わせておこないます。

### 子ども・青少年の教育とNPOの役割

全体会 日時：2002年12月7日(土)14:00～18:00

場所：エルシアター(大阪市中央区天満橋)

オープニングイベント

「ゴスペルサウンドと日本のスピリット」～ゴスペルと子どもたちの和太鼓の競演～

記念シンポ 「子ども期の再生・創造」～子育て・教育における協同の在り方を求めて～

シンポジスト 文部科学省大臣官房室 寺脇研氏 「虹」主宰 尾木直樹氏

コーディネーター：東京大学教育学部 佐藤一子氏

分科会 日時：12月8日10:00～15:00

場所：大阪女子学園(大阪市天王寺区)

全国交流会・分科会

子ども・青少年の居場所づくり、子育て支援・全国実践交流、教育改革がもたらしたものの、学校・地域・家庭での検証、社会的ひきこもり・認知と支援の在り方、気になる子どもたちへの対応は、不登校から見えるもの etc ...

## 地教連東西交流会のお知らせ

大阪の子育て文化協同の集会にあわせて、12月7日(土)19:00から 大阪市エルシアター 近辺で行います。会場は未定ですので、ご参加される方は12月1日以降、矢沢の携帯(090-2403-4947)までご連絡をお願いします。

## 2002 地教連研究交流集会のご報告と提案

10月27日に品川の都立南部労政会館で2002秋の研究交流集会が行われました。テーマは「いま、地域塾に求められる学力とは：地域塾の役割と学力問題」として、「急進的に教育改革の進む品川から」という内容を常任の矢沢が報告、「学力問題をアンケート分析と絡めて」という内容で常任の平塚が報告を行い、それぞれの論議を行いました。当日の参加は、多くの塾が行事に重なり15名と少なかったのですが、それぞれの塾の現状が率直に出された討論になりました。

特に「学力問題」の所では、事前にアンケート調査を行い、小・中・高と各学年の学力分析をし、

日頃からの塾授業が、かなり独特な形式での展開が報告されている塾の存在  
夏休みには、合宿・特別講習などを長年にわたって実践している塾の存在  
コンピューター(CAI)を利用して塾授業を展開している塾の存在  
総合授業をコア・カリキュラムとして授業を組み立て実践している塾の存在  
総合学習を実験・実習・体験を通して授業を組み立て実践している塾の存在  
以上のような各点にわたる報告を受けました。

そこで、地教連常任委員会は、これらの塾の実践報告を一つの本にまとめてみるということになりました。

**群：日頃の塾授業でオリジナル豊富な授業展開例を紹介しながら、塾生の学力について日夜研究している塾の方**

**群：夏休み・冬休み・春休みなどに特別講習を実践している塾の方**

**群：いわゆる「総合学習」にとりくみ、実践している塾の方**

各塾は、上述しました3つのグループのいずれかを選び、書き上げ、提出していただきたいと考えております。

そして、このことが、われわれ地教連の知的財産構築の第一歩になると思われ、各塾様、何卒、ご協力の程お願いします。

また、報告の調査に活用いたしましたアンケートは回収が不十分でした。ぜひ、まだ提出されていないところをご協力をお願いします。(用紙は連絡をいただければすぐに発送を致します)

## 2003 新年会のお知らせ

2003年1月12日(日)午後6時から

場所 北欧レストラン ALLT GOTT(アルトゴット) 0422-21-2338

吉祥寺駅北口下車8分 東急裏藤村女子高前

(学習センター佐藤さんの教え子の矢口君の新規開店したおしゃれなお店です。)

会費 4000円程度

ぜひ、日頃の思っていることや感じていること、悩みなどを自由に話しあいましょう。

---

## 会費納入のお願い

---

多くの会員の方から会費の払い込みをいただきありがとうございます。

会費の払い込みは年度切り替えではなく、払い込みから1年間を有効とさせていただきます。

振込先;郵便局の総合口座 記号10030 口座番号64626421 地域教育連絡協議会

郵便局の総合口座をお持ちの方はお近くの自動振り込み機械から手数料130円で振り込めます。

**団体会費 10000円(専任職員が2人以上いる団体に適用)**

**個人会費 4000円**

**賛助会費 2000円**

**学生賛助会員 1000円**

会費の納入のない方は、ニュース等の配付を停止させていただきます。

地教連では会費が財源の大部分を占めています。ご協力をよろしくお願いいたします。

### 経費節減、御協力のお願い

通信はなるべくEメールで送付したいと思っております。アドレスをお待ちの方は、Yzwhiro@aol.comまで「地教連メール」と入れて下さい。団体の方は団体の職員の方にも配信をしますので、個人のメールアドレスもお知らせ下さい。経費削減のためにアドレスの登録をぜひお願いします。なお、アドレス登録された方は、郵便でのご連絡は割愛させていただきます。

**地教連のメーリングリスト(ML)も運用しています。**

MLに加入すると加入者相互に意見の交換などが容易にできます。また、地教連や各地の情報もリアルタイムで入手できるのでとても便利です。

加入希望の方は webmaster@tamagaku.com (多摩学習センター:地教連ホームページ担当)まで

各塾でHPをお持ちの場合、地教連HPで相互リンクを貼れます。相互リンクを貼ればアクセス数が伸びます。ぜひ、相互リンクを貼っていきましょう。

なお、退会希望やニュースの配信が不要な方も、ご一報下さい。

---

## 本の紹介

---

就職難に悩む高校生・大学生・フリーターのあなたへ

**もう一つの<いろいろな>働き方** 若者たちの仕事探し・仕事起し

A5判・80頁・定価1000円(税別) 佐藤洋作・カンパネラ編集委員会/編

第1章若者たちの「やりたい仕事」探し

その困難と希望を展望する

第2章こんな仕事をしています

起業した若者など12例を紹介

注文は 佐藤洋作さんまで

NPO文化学習センター メールアドレス center@npobunka.net

TEL:0422(47)8706 FAX:0422(47)8709

お詫び

総会での鶴浦さんの講演の起しは終了していますが。校正が滞っています。でき次第、送付いたします。遅くとも年内には完成させる予定です。

# 地 教 連 情 報

2002-11-13

## 第5回 大東学園公開研究会のお知らせ

2002年11月23日(土・祝日) 午前10時から

講演：ともに学び、ともに生きる ～「性」を学ぶ意味を深く～

村瀬幸浩氏「人間と性」教育研究協議会代表幹事 一橋大学講師

公開授業：「性と生」「女性と人権」「福祉」

午後より 分科会

「性と生」「平和」「女性と人権」「福祉」「三者でつくる学校」「マスメディアを考える」

助言者：村瀬幸浩 森田俊男 中島みさき 野呂啓一郎 石子順 の各氏

参加費 2000円 (当日、受付にてお支払い下さい。)

学生・大学院生は、1000円

昼食代 1000円 (事前にお申し込みの上、当日受付にてお支払い下さい。)

申込先 〒156-0055 東京都世田谷区船橋7-22-1

大東学園高等学校公開研事務局 電話 03-3483-1901 F a x 03-3483-4105

なお、同日に和光学園の公開研究会も予定されています。

## 学びをつくる会 第二回学習会のお知らせ

日時 11月23日(土) 18:00～

場所 豊島[生活産業プラザ](JR池袋駅東口徒歩3分 豊島区民センター裏)

内容 子ども・青年の自立支援と学びの公共性

～「普通教育」を今どのように考えるのか?～

講師 : 平塚真樹(法政大学)

学校から社会(あるいは仕事)への「わたり」が困難化している現在、その状況を引き受けて、学校(特に小中学校)の学びには今どんな役割が課されていると考えるか、特に「普通教育」という概念をいまどう構想・提議するかが一つの焦点ではないかと考えます。また、普通教育概念を今日的に構想・実践する作業を通じて(ここではもちろん例の「総合学習」問題を避けて通ることはできないわけですが...)、学校における学びの公共性を回復していくこと、それは、公教育としての学校の再生につながるだけでなく、子ども青年の自立支援の社会システム化にも直結するはずだと考えています。そのあたりに事寄せてお話できればと考えています。

## いま協同を拓く 2002 全国集会 in 千葉のお知らせ

『この社会をどうする！

～生命・労働・地域の再生を担う新しい力を求めて～』

事務局 協同総合研究所 北区中十条2-11-6 TEL 03-5963-5355 FAX 03-5963-5366

日程： 2002年11月23日(土)、24日(土)

会場： 千葉大学 西千葉キャンパス B・D・F・H号館

内容：11/23(土)13:00～17:45

基調講演 大内力 (東京大学名誉教授)

記念講演 堀内光子 (ILO駐日代表、ジェンダー特別アドバイザー)

ディスカッション

「どうするこの社会！労働・地域・社会の再生を担う新しい力を求めて」(仮)

・池田徹(生活クラブ生協千葉理事長)・荒井茂男(我孫子市環境生活部市民活動支援課長)・田中羊子(労協センター事業団副理事長)・田中夏子(長野大学産業社会学部助教授)

\*コーディネーター：菅野正純(日本労協連理事長)

11/24(日)9:30～16:30

分科会(仮)

地域の協同がつくるコミュニティ・ケア

子どもが安心して育つ地域づくり～協同の関係づくりと支援のネットワーク

ケアとは何か～ケアワークの人的発展とケアのネットワークづくり

高齢者の仕事おこしと社会参加

障害者が暮らし続けるまち

食と農から地域を考えよう～地産地消・スローフードと協同

暮らしの協同化とまちづくり

若者「しごと」文化～新しい働き方をもとめて

女性がつくる地域～協同の仕事おこし

新しい公共性の創造～市民が担う公共と行政の役割

地球環境を守り育てる、地域・市民の協同とその連鎖

大量失業と地域崩壊を克服する社会制度～協同労働の協同組合とは

参加者：

千葉県内もしくは全国で、地域の仕事おこし・街づくりにかかわる人。また、そのような仕事、働き方に興味を持つ学生、主婦、障害者、お年より、勤労者等誰でも。NPO、協同組合(生協・農協・漁協・森林組合・労協)、学校、各種団体、商店主、労働組合、自治体などの関係者 計500人程度

加費：2000円(学生1000円)

後援：千葉市、習志野市、船橋市、千葉県教育委員会、NHK千葉放送局

---

## 岐阜県 学習サークル 鳥本さんからの投稿。

---

7月に鳥本さんから寄せられていたものです。掲載が遅くなりましたこととお詫びいたします。なお、本稿に関するご意見ご感想をお待ちしております。

私が最近生徒たちと接して特に感じるがあります。それは、子どもの「心の発達」についてあまりに無頓着な教育が行われているという点です。

人の言葉と行動の原動力は何でしょうか？ 私は「心」だと思えます。そしてその「心」は理屈ではなく、その人が心の奥底に持っている自分でもみえない「心」、つまり無意識の部分によって選択され、言葉や行動として表面に出ていくものだと思います。頭では「学校へいきたい。」と書いていても、実際には行けない。「勉強しないといけない。」と書いていても実際にはできない。意思と行動が伴わない矛盾、これはその人が心の奥に持っている「自分も知らない自分」がそうさせているからです。これを「潜在意識」とか「深層心理」という呼び方をします。この「潜在意識」は人に無意識の判断をさせ、身体的にも異変を起こす力があります。嫌なことを避けるために熱を出したり、腹痛を起こさせたりすることもあります。これは本人も気がついていない「潜在意識」の影響で、この「潜在意識」は人が生まれてからすぐに形成され始めます。

脳は子どもが生まれてから3才までに爆発的に発達します。「脳の第1成長期」です。脳の神経細胞が伸び、複雑に絡み合って約400gだった脳が1200gくらいまで成長します。その間に子どもは「自己イメージ」または「自尊心」の原型みたいなものを持つようになります。その間に「～してダメ。」とか「～しないと・・・になれないよ。」みたいな否定的な言葉をかけ続けられると、「自分はダメな人間なんだ。」という自己イメージを持ち、「自尊心」が傷ついて、何をしても自信を持ってない臆病な子どもができあがります。一見、何でも言うことに従うような、大人しくて従順な子どもに思われますが、心に否定的な自己イメージがつくられていた場合、「愛されている」という感覚の少ない「心」がつくられており、そのままこの時点で人格の基本が出来上がってしまいます。これを「三つ子の魂百まで」という言い方をします。

3才から5才まで、脳の発達が一時休みに入る時期があります、この間は「心の第1成長」が行われている時期です。別名「第一反抗期」とも言われますが、この時期には自分の意思・主張を押し通すようようになってきます。わがままやいたずらに対して頭から子どもを押さえつけたり、親のイメージ通りの型に子どもをはめようとしたりすると子どもとのコミュニケーションが不十分になります。その場合、「心の発達」が阻害されて自立心が十分育ちません。そうすると、目標を持つことや、目標を達成するために何をすべきかが自分で決められなくなります。将来に希望を持たない高校生や、やりたいことがみつからない大学生ができあがります。

5才から7才までは「脳の第2成長期」、7才から9才は「心の第2成長期」です。

この時期は脳と心の成長に体力が追いついて一番遊びが楽しい時期で、感動を味わう時期だと言われています。このとき「幸せ」と感じたことは一生楽しい思い出として残ります。ただし、「幸せ」と「憎しみ」は同じ次元の感動ですので、この時期に辛いと感じたことは一生「嫌いなこと。」・「嫌な思い出」として残ります。たとえばこの時期に嫌なピアノを無理やり習わされると、ピアノの練習が一生嫌いなものとして心に刷り込まれます。叱られながら勉強させられた子どもは「勉強が辛い」というイメージを心に刷り込まれます。

その後「脳の第3成長期」・「心の第3成長期」が来ます。「心の第3成長期」は「第3反抗期+思春期」です。年齢には個人差があり、きちんと分かれているわけではありませんが、中学2年くらいまでにそれぞれの子どもの心にそれぞれの「思い込み」が形成されていきます。

「寝返り」、「ハイハイ」、「つかまり立ち」など、「言葉が話せる」ことも脳の発育です。「脳の成長」に関する部分はよく見えます。しかし、その裏側で「心の成長」も確実に行われています。ここは確かに見えにくい部分だと思いますが、無視できるものではないはず。特に「心の成長期」、別名「反抗期」の時期に形成される「潜在意識」はその後の子どもの人格に影響し、様々な無意識の判断を司っていきます。一般的には単に「反抗期」として扱われますが、小・中学校は特に「心の成長」にとって大切な時期です。それを意識した接し方が学校でどれほどされているのでしょうか？  
そういった子どもの「心の成長」について意識している先生が何人みえるのでしょうか？

最近、日本へ来る留学生の質が落ちてきました。「外国も日本と同じなのか・・・」と書いていたら違いました。日本への留学を希望する学生が減ってきたのです。留学希望者の中でも希望する国へ行けなかった学生がしかたなく日本へ来るというパターンが増えてきたんです。日本の教育の中には「脳と心の成長」を意識した部分がありません。欧米ではすでに学校教育の中で取り入れられています。比べて日本では「脳と心の成長」についてあまりに無頓着な教育がなされているためにほとんどの留学生が日本の教育システムに落胆して帰った結果なのです。外国のある有名な大学の総長は日本の教育を見て言いました、「日本の学生はよくがまんしている。」と。ある留学生は言いました、「日本の学校の教室は牢獄だ。」と。

文部科学省は学級崩壊・不登校・いじめ・学力低下などの問題について対策を行っているかのように主張しますが、今後、問題はさらに広がっていくことでしょう。こどもの「心の成長」についてもっと興味を持ち、学校教育や子どもとの接し方について考え直さない限り良い方向へは向かっていくことは望めないと思います。  
“べんぼすた”でよく言う、「あなたは、あなたのままでいいんだよ。」というメッセージ、これこそ子どもの「心の成長」を願う本当の言葉だと思います。中川さんの言葉を借りて言えば「『楽しかったなあ。』と思える今日という一日一日の連続が、明日へつながっていく生き方」、これこそが子どもの「心の成長」に一番の栄養だと痛感しています。